

平成26年度第2回古賀市文化芸術審議会議事録

日時：平成26年10月28（火）12：30～

場 所：市役所第1庁舎4階第2委員会室

出 席：審議委員 緒方会長、中山副会長、加藤委員、河村委員、古賀委員、坂崎委員、
志賀委員、古川委員、米倉委員、結城委員

事 務 局 山田生涯学習推進課長、西村文化・スポーツ支援係長、田中主事
村山歴史資料館館長、中野歴史資料館係長

傍 聴 者 1名

配布資料

レジュメ、平成26年度文化芸術関連事業中間報告書（4月～9月）、文化芸術関連事業一覧表
（仮称）生涯学習センター及び周辺施設整備工事実施設計概要、平成27年度文化芸術企画（案）

（司会：西村文化・スポーツ支援係長）

1 開会のことば（山田生涯学習推進課長）

2 会長あいさつ

3 報告

(1) 文化芸術関連事業の実施報告について

①企画展（井上泰幸展）

井上泰幸氏は古賀市出身の特撮映画監督で、円谷プロで中心的な役割を担っていたこともあり、ハリウッドではゴジラの生みの親とも言われている。また、奥様の玲子氏もアルミの造形物の芸術家でもあり、企画展では、ご夫婦の人となりや作品、絵コンテ等を展示した。実行委員会形式で実施し、ワークショップとして子どもたちにジオラマ作成してもらい、その様子を映像として残している。期間中は三池敏夫氏のトークショーや、映画上映会等も実施。市内外から5000人以上の来場者があった。

②プロムナードコンサート

過去12年間サンフレアこがとリーパスプラザの間の広場で実施してきたが、（仮称）生涯学習センターの工事の関係で会場変更をする必要があり、会場を市の健康文化施設であるクロスパルこがで実施した。理由の一つとして、今まで中心部で行っていたものを地域に出向くことで、新しい参加者の掘り起こしと地域の文化芸術振興を図り、またクロスパルこがのPRも兼ねて会場を選定した。

③公募型補助金事業について

定期演奏会：市民オーケストラ

夏休みこども体験教室：特定非営利活動法人古賀市文化協会

中山副会長：企画展について。寄贈をいただいた作品の保存方法についてどうされているか。

事務局：旧給食センター（現在の文化財収蔵庫）に保管している。また、玲子氏の作品については、作品の名前や作成年月日がわかり次第キャプションを作成し、各所に展示する等を検討している。今回の企画展に限らず、絵画等の寄贈があるが、一定の保存場所がなく、リーパスプラザに保管してある。出来るだけ多くの人に見ていただけるようローテーションしながら展示していく方向で検討している。

緒方会長：寄贈作品は何でも受けていいわけじゃない。作品の評価をする必要がある。評価委員会を設置し、作品の評価をし、受け入れる場合、市にとってどれだけ意味があるかを検討する必要がある。受け入れになった場合は評価額をつけないといけないので、評価委員会の中で話し合わなければならない。また、受け入れる基準として内規を定めたほうがいい。受け入れた側には永遠に管理しなければならないという責任があるので、それなりの覚悟を持って受け入れなければならない。

緒方会長：プロムナードコンサートについて。今回は致し方ないと思うが、課題が多々あるように見られる。「誰でも通りすがりに立ち寄れる気軽なコンサート」をコンセプトとするなら、いろんな場所で展開していくのは非常に重要なことだと考えるが、気軽に立ち寄れるスペースのあり方について主催者側がどう考えているかが市民にどれだけ伝わるかが重要。コンセプトと実際の行動にギャップがあると不満も出てくるのではないかと思う。

古賀委員：会場選定の際に、来場者が少ない地区を判断材料としたと記載されているが、結果わずかに上昇となっている。会場は、この校区の方々にとってはアクセスしやすい場所だったのか。

事務局：クロスパルこがは青柳地区という場所にあるが、会場は山部にあり、バスの本数も少ない。歩いてくるには距離があり、車での来場者がほとんどだった。地元の方々からしても、行きにくい場所ではあった。

古賀委員：感想だが、会場が変わってもその地区の来場者はそんなに目立って増えたわけではないのは、そういった場所の問題もあるかもしれないが、その他にも音楽や文化芸術の楽しさをもっともっと広げていく必要があるように感じた。

緒方会長：毎回野外での会場を選定しているのか。

事務局：雨の場合は室内での開催になるので、800人規模を想定して雨の場合でも晴れの場合でも800人収容できる会場がある場所を選定している。

緒方会長：小学校区や中学校区での開催は過去にあるか。

事務局：これまで12年間ずっとリーパスプラザ前広場で実施してきた。過去のデータより、会場までの距離がある小野校区や青柳校区からの来場者が少ないのかもしれないという懸念があったため今回実施したが、このような結果になった。

緒方会長：欧米の大学は誰でも気軽に立ち寄ることができるよう正門近くに美術館があったりする。きっかけがあって、次は自分から音楽に親しみに行く。段階を踏みながら市民が文化芸術面での成長をしていけるような政策を、文化芸術振興計画に沿って進めていくべきだと思う。きっかけづくりとしても、本コンサートの意義はおおいにあると思う。実験的に、地域展開をしていくのは必要ではないか。それなりに不満はでるだろうが、受け止めながら粘り強く進めていくべきだと思う。

志賀委員：コンサート会場ではイスを何脚用意されていたか。

事務局：400脚用意していた。

志賀委員：開始前に来場したが、すでに後ろに立っている方もいらっしやった。2時間経ち続けるのはきついで、今後はそこも考慮して準備するべきではないかと感じた。

河村委員：本コンサートは広く多くの人に親しんでいただく事業になるかと思うが、一方で人数は少なくともクオリティの高いもの、行政が関わらなければ実施できないような高クオリティな事業も今後やっていただければと思う。

志賀委員：ご提案ですが、行政は各部署が縦割りで仕事を行っており、予算も各部署に分かれているから各部署がビッグな人を中々呼べない。1年に一回でも、各部署が連携して大きな催し物を行ったらいいと思っている。

緒方会長：アクションプランが出来たということは、各課が持っていた文化芸術関連の予算がよく見えるということだと思う。今回、こうして文化芸術関連事業一覧表が出来たということは進歩だと考える。似たような事業をやっている場合は一緒にやってみよう、まとめてより大きな事業にしようという気運が高まることにもなる。行政の中で文化芸術に対する関心が高まることにつながると思う。

緒方会長：今後はページ番号を打っていただけると助かる。

(2) 市全体で取り組んでいる文化芸術関連事業について

各課に調査を出し、市で行っている文化芸術関連事業を一覧表にまとめたもので、教育部以外にも子育て支援課、介護支援課、隣保館等で文化芸術関連事業を行っている。

(3) (仮称) 生涯学習センターの工事の進捗状況について

実施設計については利用者のアンケートを踏まえて策定した基本設計をもとに、意見交換を行いながら詳細について検討している。資料では、上段に、完成イメージとして、「建物内観のフォーラム」「外観の正面玄関付近」そして「生涯学習ゾーン全景」を掲載している。リーパスプラザとサンフレアこがを2階部分でつなぐことで、全て一つの建物として新しい建設基準法の適用となるため、新しい基準に沿うよう工事が必要となる。実施設計のポイントとしては、『トータルコストの低減』『コンパクトな施設整備づくり』を踏まえつつ、1点目は『合理的・機能的な空間利用』を実現するため、2階の「多目的ホール」「フリースペース」、3階の「和室」に「可動式間仕切り」を、そして多目的ホールには「収納式ステージ」を整備する。また各部屋の有効面積を最大限確保するため、室内には「下足箱・手荷物棚」、そして「最低限の机・イス等の備品」を設置し、残りの備品は、廊下幅を通行量に合わせて変えることで確保した「収納庫」内に保管し、共有化することで配備数も低減させます。更にアンケートで多かった「パブリックスペース(共用空間)」の整備要望を踏まえ、1階に「フォーラム・情報ラウンジ」、2階に「フリースペース」、3階に「屋上テラス、ラウンジ」、「調理室のヌード化(ガラス張り)」その前には「正面エントランス前の大庇、既存松林を活用した調理室横のフードテラス」、更には「各階トイレ前には壁面ギャラリー」などを整備する。また、ホール棟の機械設備と可能な限り統合・管理の一元化を図り、団体所有物については、各階に「有料ロッカー」を整備するとともに、「楽器庫」や「工作室横に控室」を設ける等利用者の利便性を高める。その他にも、「2階ベランダ」を廃止「3階屋上テラス」に機能統合。入り口は、玄関からサンフレアのほうに大庇を設け、雨に濡れないよう工夫。更に「学習室」は、3人がけから2人がけにしたうえに、プライバシー配慮のための工夫をし、壁側にパソコン用の電源も設置予定にしている。また、特徴の一つとして「エレベーターのヌード化」を予定している。このような建設予定をしていますが、問題として、リーパスプラザが日陰になってしまうことや、来館者の減少が心

配される。各施設にある会議室の特徴を利用して活用したり、ロビーをギャラリーとして開放し、市民団体に活用してもらったりと、来館者を減らさない工夫をしたい。入札が不調に終わっているのも、まだ正式にはわからないが、センターのグランドオープン等予定が3ヶ月ほどずれこむのではないかと考えている。

4 協議（以下進行は審議委員会長）

(1) 平成27年度の文化芸術企画（案）について

資料は生涯学習推進課の事業計画のみ。また、ただいま予算編成の途中であり、詳細内容については検討中のため、資料の内容の詳細については26年度のものになっている。昨年度と大きな相違点として、プロムナードコンサートがセンター建設等の関係で、一旦お休みさせていただき、センター新規オープンにむけて何か出来ないか検討中である。改善点や工夫点について何かありましたらご意見をいただきたい。

緒方会長：昨今どこの行政も予算が厳しい状況にある。残すべきものは残す、続けるならば昨年度の反省を踏まえた上で、よりよい効率的な予算の執行を行うべきだと考える。

米倉委員：アート・バスについて中学生の参加が非常に少ないと書いてあるが、土曜日開催や、美術部を連れて行くという方法はいかがか。

緒方会長：実施は土曜日に行っている。

古川委員：何度も呼びかけをしてチラシの配布を行っているが、なかなか集まらない状況。部としていくのであれば、確保はできるかと思う。

緒方会長：一部のターゲットに絞る方法であれば、先生たちも声かけやすいと思う。モデルとして一回やってみるのも一つの案ではないか。

古川委員：部としていく場合、アート・バスのルールと学校のルール、たとえば、服装、バスの中での過ごし方等の相違を事前に打合せをして基準を合わせる必要がある。

坂崎委員：部でいくにしる全体に広報するにしるどこに声かけをしたらいいのかわからない。また、小学校だとわかりやすいが、ひとクラスで固まって応募があったりする。そういうときは、担任の先生が声かけをしていたことがわかった。担任の先生の説明や解説のしかたにかかっている部分もある。また、中学校は部活動に所属している子がとても多いので、土日が部活動で忙しい子がほとんど。美術部として実施が出来るなら学校教育課と協力する等して実施したい。また、過去に市の事業とは別に、未就学児と保護者を対象としてアート・バスを実施したことがあり、大変好評だった。今のアート・バスは3年生以上が対象となっているので、1・2年生とその保護者を対象に実施できたらいいなと思う。学生ボランティアも、ただのお手伝いではなく、自分たちのスキルアップになるというメリットがある。今は学生だけだが、大人でもいい。各美術館も解説ボランティアも多い。人材育成の一環としても活用できると思っている。

緒方会長：一つ一つの事業がつながる意識を持って政策を立案していけば、古賀全体のアートの底上げが図れるのではないかと思う。

事務局：校長会に行くのはもちろん、チラシ配布前には電話をして、担任の先生から一言お知らせをしてほしいとお願いしている。また、発達障害の子どもについては、研修会等を行って対策をしていけたらと考えている。

河村委員：海外では学校教育と芸術、文化が自然に結びついている。日本の教育はタイトであり、文化芸術と触れる機会を許さないような状況にあると感じる。教育の局面が難しいからうまくいかないところが根本にあると感じる。

緒方会長：そのことについてはすぐに何かを変えることは難しい。今、古賀がやっていることは種をまく作業だと考えている。どの事業もとても少ない予算で事業を行っている。けれど、地道にやっていかなければ何も進まない。種をまかないと芽吹いてこない。もう少し我慢して続けていくことが必要。

志賀委員：シニア世代のほうに、外出促進のシール集めを行っている。その効力をひしひしと感じている。イベントを行ったとき、100人に40人～50人がシールを集めている来場者として固定している。それを子どもたちに応用してはどうか。

緒方会長：動機づけというのは大切。動くきっかけを与えることは必要。

加藤委員：私もアート・バスに関しては大きな評価と期待をしている。私が現役時代、大人のためのアート・バスを行った。2回行ったが、どちらとも40名の定員が1時間でいっぱいになった。お昼のお弁当を用意するぐらいで、あくまでも受益者負担で行った。1回でもいいので大人のためのアート・バスを行ってはどうか。大変よろこばれると思う。

緒方会長：行政が全部丸抱えするのではなく、受益者負担という考え方はいいと思う。

結城会長：地域の福祉会に所属しているが、お年寄りの方を美術館等にお連れしたり、文化協会の事業である市民音楽祭にも福祉会のほうからチケットを購入して連れて行くような活動もしている。私自身が文化芸術を振興する立場にいますので、福祉のほうでも進めている。つづけて、レッツトライ！プロジェクトについて、現在15～6人の参加者で行っているが、もっと多くの団体の方に参加していただきたいと残念に思っている。講師の方をよんで、団体の課題や悩みを共有して解決策を考えたり、いっしょに取り組めることはないのかなど知恵を絞りあっている。何かに挑戦できないか、自分たちでイベントをつくりあげたり、または、今行っている古賀のイベントを活用できるのではないかとという方向性が見え隠れしている。広く周知して、1団体1人は参加してくださいと直接手渡しをされたらいいかと思う。

緒方会長：広報活動というのは大切。せっかくこのような素晴らしい人材育成事業を行っているのであれば、しっかり広報活動をしてほしい。

古賀委員：全体についての話になるが、アクションプランを実現していく過程としてこのような資料を作っていたのは素晴らしいことだと思うが、もし可能であれば、一つ一つの事業がアクションプランのどこに該当するのかをぶら下がりが見えるようにしてほしい。どこが動いて、どこがまだなのか目に見える形にしてほしい。

緒方会長：備考の欄にアクションプランのどこに該当するかを記入してほしい。せっかくアクションプランという根拠があるので活用してほしい。

古賀委員：文化芸術関連事業一覧にもアクションプランのどこに該当するか記入してほしい。

志賀委員：本アクションプランが出来たときに、文化協会として対比表を作成したので、次回それを持参してほしいか。

緒方会長：アクションプランは市民にどれだけ浸透するのが重要。文化協会がそれを意識して活動を行っているならば、有効な例としてぜひ参考にしたい。

5 その他の事項

中山副会長：学校で生の舞台や音楽等の鑑賞、また芸術家がワークショップを行ったりしている。そのような機会がどれだけあるか調べてほしい。

6 閉会の言葉（緒方会長）